

議 事 の 経 過

議事は、会議次第に沿って進行された。

「議題」については、事務局から説明後、出席者による討議が行われた。

討議の概要は、以下のとおり。

○ 議 題

(1) 川越市産業振興ビジョンの進捗状況について

事務局が資料に基づき説明。

[発言内容]

(会 長) 事業承継と就職支援は人材不足という点から共通の課題となっている。多様な働き方の支援と併せて、取り組んでいく必要がある。

空き店舗の利活用は商店街の立地等の状況によっても異なるが、中心市街地などでは活性化のための新規事業に取り組む必要がある。商店街のデジタル化については、キャッシュレス化の推進ということで商店側の取り組みだけでなく、顧客との接点という観点からも取り組む必要がある。

DXの推進は個別の企業の問題ではあるが、産業振興を推進していくうえで重要なテーマとなる。行政が保有しているビッグデータの活用についても、より使いやすくなるよう可能性を模索してほしい。

まとめると、現行の産業振興ビジョンは過去から引き継いでいる事業も多くあり、その方向性は間違っていないので、継続して進めてほしい。

(副会長) 全体として、事業が進捗していることは理解した。評価の中で、新型コロナの影響をどうとらえているのか。ゼロゼロ融資の返済が始まるなど、市内の中小企業者への影響も考えられることから、今後、どのように支援していくのか伺いたい。

(事務局) 市の制度融資を利用している企業の中でも、昨年度末あたりから返済計画の見直し等を行う企業が出てきた。県内でも、返済が厳しくなり廃業する事業者が増えてきていると聞いている。状況を注視したうえで、適切な支援を行いたい。

(会 長) コロナ禍において改革を推進した企業は、先々の見通しが立ってきている。一方で、耐えてきた企業は、まだまだ時間がかかるものと思われる。このあたりをアンケート調査などで把握してはどうか。

(事務局) 市では、毎年度「景気動向調査」を行っている。この中で、新型コロナへの影響に関する設問もある。中小企業を対象とした調査のため、市内全ての企業の動向を把握しているわけではないが、傾向を見ることはできている。

(委 員) 街中を歩いてきたが、インバウンドを含めて観光客がかなり戻ってきた印象があり、改装されている店舗も増えたと感じる。一方で、急速な回復による人出不足は大きな問題となっており、どう解決して発展させていくのが課題となる。

生成AIの活用により、さまざまな課題の解決に向けてスピード感をもって取り組むことができるのではないかと感じる。進捗度についても、細かに見ていく必要がある。

川越を訪れる人の9割は日帰りである。今後は、民泊の活用が必要であると考えており、地域にあったルール作りをしたうえで取り組んでほしいと考えている。

(委員) 全体の進捗状況としては、B評価が多くなっている。それぞれの事業等に潜んでいる課題には大事なものも多くある。商工会議所などとの連携により、取り組んでいく必要があると考える。

(委員) 1000坪から2000坪ほどの小さい工業用地で、地元企業が事業所の集約をしたいという希望がある。空き工場や空き工業団地に係る情報の提供、関連する産業が集約された工業団地の検討、JETROとの共同事業などもお願いしたい。

空き店舗数について、空き地や駐車場は含まれていないものと思われる。数字の把握の仕方についても工夫が必要。

商店街については、東西南北と中央の5ブロックに分かれているが、それぞれ置かれている立場が異なる。ブロック単位で課題の抽出等を行ってほしい。

(委員) 中小企業において、人材難というのは大きな問題となっている。人材確保にあたっては、新卒だけでなく第二新卒などにも対象を拡げている。DXに詳しい人材を確保することも難しいため、そのあたりを支援していただけるとありがたい。

KOEDO E-PROに関しては、マンネリ化してきている。取り組みとしては良いと思うので、PRの仕方などの見直しをお願いしたい。

(委員) 企業誘致にあたっては、道路や交通、ゴミなどの周辺環境に影響を及ぼす問題が生じることもあるため、地元との丁寧な調整をお願いしたい。

(委員) 前委員の発言にもあったが、全体の進捗状況としてB評価が多くなっている。一部見直しについて、丁寧に進捗管理をしていかないとそのまま進んでいってしまうことが危惧される。創業や就業の支援については、将来的なことも考えると継続して取り組む必要がある。

(事務局) 各事業を実施している担当に対しては、進捗状況の報告に係るシートの作成をお願いしており、それぞれの課題や方向性等についても認識している。今後は、資料を作るうえで見せ方などについても工夫していきたい。

(委員) 高齢化に伴って農業の後継者がいなくなり、休耕田が増えている。産業振興ビジョンの中では具体的な記述がないが、何か対策は考えているのか。

(事務局) 産業振興ビジョンと同様に農業振興計画や観光振興計画も策定しているため、具体的な取組についてはそちらにおいて位置づけしている。

(事務局) 農地の保全については地域計画を作成しており、10年後にその農地を誰が担っていくのかについて地域で話し合い、集積を進めている。

(委員) 川越を訪れる観光客や産業のにぎわいが、それぞれの事業者の経営に直結する部分も多くある。市と事業者が連携して取り組むことが重要である。産業振興ビジョン及びその進捗状況についてのPRにもっと取り組んでほしい。

(委員) 人材の確保に重点を置いて取り組んでほしい。また、取り組みに係る情報の発信にも力を入れてほしい。

(委員) 人材不足について、例えば事業者が新しい技術を開発するにあたり大学や工業高校との共同研究を行うことで、リクルーティングにもつながる場合もある。今後、産学官の連携を進めていくなど、取り組んで行ければと思う。

農業の分野においては、国分寺市の「こくベジ」というブランド化の取り組みがある。農商工連携についても、これを参考に取り組んでみてはどうか。

(会 長) みなさまからいただいた意見や推進に向けての要望などについては、今後、進捗管理をしていく過程で反映してほしい。その他、ご提案いただいた内容について、実現されるよう検討してほしい。

○その他

特になし